

# 第6次 小郡市総合振興計画

概要版

人がつながり 市民が躍動する  
温かみのある都市 おごおり

～「共感・共働・共創」による共生社会を目指して～



# ごあいさつ

現在の小郡のまちは、昭和30年に小郡町・三国村・立石村・御原村・味坂村の一町四村が合併して誕生し、昭和47年の市制施行から半世紀が経過しました。

これまで小郡市は、福岡市や久留米市に近く、高速道路や鉄道が市域を縦横に走っているという地理的条件や交通利便性の高さを背景に、大きく発展してまいりました。

一方で、現在、わが国は少子高齢化の進展とともに本格的な人口減少社会を迎え、豪雨災害の多発や新型コロナウイルス感染症の発生など、急激な環境の変化に直面しています。

小郡市も例外ではなく、大きな環境の変化の下にあり、小郡市に関わる様々な人達とともに持続可能なまちづくりを進めていくために、第6次小郡市総合振興計画を策定いたしました。

この計画では、将来像を「人がつながり 市民が躍動する温かみのある都市 おごおり～「共感・共働・共創」による共生社会を目指して～」とし、将来像の実現に向けて、5つの基本政策を掲げ、新たに重点施策を定めました。

この計画を実現し、市民の皆様が「住んでよかった。住み続けたい。」と、愛着と誇りを感じていただける小郡市を目指して、まちづくりを進めてまいります。より一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

最後に、この計画の策定にあたり、熱心にご審議いただいた総合振興計画審議会委員の皆様をはじめ、市議会議員各位、市民ワークショップ、アンケート調査、パブリックコメントなどを通して貴重なご意見をお寄せいただいた多くの方々に対し、心から厚くお礼申し上げます。

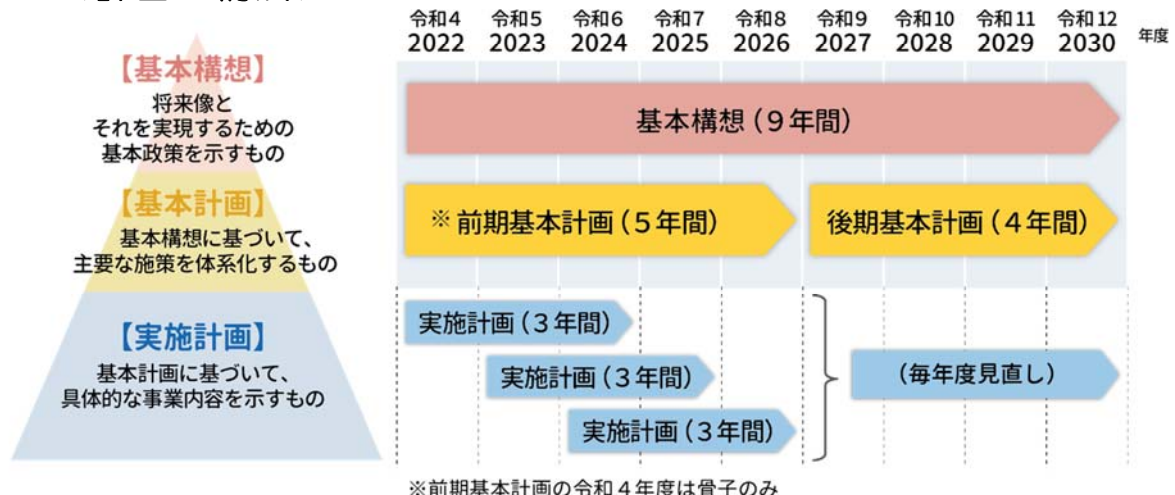
令和5年3月

小郡市長 加地良光



## 計画の構成と期間

### <計画の構成>



## 第6次小郡市総合振興計画とは

小郡市を取り巻く社会情勢や環境の変化を踏まえて、市民と行政、各種機関、団体、民間事業者がこれから目指す将来像やまちづくりの方向性を共有し、新たなまちづくりを創造していくための根幹となる市の最上位計画として、第6次小郡市総合振興計画を策定します。

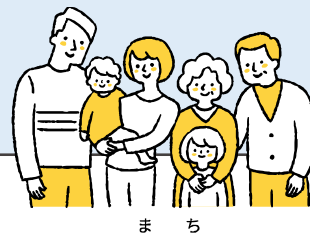
### 将来像

今までに経験したことのない少子高齢化の進展、多発する豪雨災害、新型コロナウイルス感染症への対応など、複雑化・複合化する新たな課題と向き合っていく必要があり、持続可能なまちづくりを進めていくためには、多様な主体とのつながりや支え合いがますます重要になります。

市民とともにまちづくりを進めるに当たり、目指すべきまちのあるべき姿や望ましい姿として、以下の将来像を掲げます。

小郡市が目指す

将来像



**人がつながり 市民が躍動する温かみのある都市 おごおり**  
～「共感・共働・共創」による共生社会を目指して～

- 「人がつながり」 …………… まちづくりの主役である市民と市民がつながり、行政、各種機関、団体、民間事業者等と密接に連携することを表しています。
- 「市民が躍動する」 …………… 市民、各種機関、団体、民間事業者等の活動が活発になり、地域や経済が活性化することを表しています。
- 「温かみのある」 …………… お互いが支え合い、一人一人の人権が尊重されるまちづくりを表しています。
- 「都市（まち）」 …………… 交通の利便性等を生かした住みやすい快適な都市づくりを表しています。

持続可能なまちづくりの推進に向けて、「お互いの状況を理解し、多様性を認め合う共感、共感によって同じ目的に向かい行動する共働、共働によって新しい価値や魅力を創造していく共創」を一連のまちづくりの考え方として推進し、さらに多様な主体が役割を分かち合い、支え合いながら暮らしていくことができる全ての人々が包み込まれる地域共生社会の実現を目指します。

# 体系図

将来像の実現に向けて、5つの基本政策と次の分野項目を掲げ、計画的にまちづくりを進めます。



## エスティージェー ス SDGsの推進

SDGsとは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称で、2015年の国連サミットで採択された2030年までを期限とする世界共通の目標で、17の目標（ゴール）が設定されています。

小郡市では第6次総合振興計画を推進することにより、SDGsの達成に取り組んでいます。





## 重点施策

次のとおり各分野の主要施策の中から、重点施策を位置付け、重点的に推進します。

基本政策

01

# 1 安心して 住み続けられる まちづくり



分野  
項目

## 防災・減災対策の充実



### 流域治水※の推進

ため池や市営河川の改修・浚渫や雨水幹線※の整備、雨水流入調査などを実施します。  
さらに、国・県・市・事業者・市民などの関係者と連携し、災害が発生した地域に重点を置いて内水氾濫の治水対策と浸水被害の減災対策をハード・ソフト一体となって進めます。



### 地域防災体制の充実・強化

災害対策本部などを整備し、自主防災組織※の活性化と初動体制の確立を図り、自主防災組織の核となる地域の防災リーダーの育成を推進します。  
また、避難行動要支援者※の個別支援計画の策定を促進し、支援体制づくりに取り組みます。

分野  
項目

## 環境保全・循環型社会の推進



### 環境施策の推進

地球温暖化対策として、脱炭素社会の実現を目指して啓発などを行い、市民や事業者と連携して温室効果ガス※排出削減を図る取組を推進します。

分野  
項目

## 多様な主体が担う地域づくり



### 市民主体の地域づくりの推進

地域づくりに取り組む自治会や校区協働のまちづくり組織※、市民活動団体などの団体や個人が自立的な運営や活動の充実を図れるよう、人材育成や学びの場の提供、交流機会の創出など多面的な支援を行います。

また、地域づくりへの関心や関わりを持ってもらえるよう、地域を支える人や団体の思いや活動を伝える情報発信の仕組みをつくります。

- ※ 流域治水 : 河川、水路などの管理者が主体となって行う治水対策を加速するとともに、雨水が河川に流入する地域から氾濫域にわたる流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考え方。
- ※ 雨水幹線 : 道路側溝などに集まった雨水を河川へ排除するための雨水管及び水路。
- ※ 自主防災組織 : 地域住民が「自分たちの地域は自分たちで守る」という連帯感に基づき、自主に防災活動を行う組織。
- ※ 避難行動要支援者 : 高齢者、障がい者、乳幼児など、災害時に配慮が必要な方のうち、自ら避難することが困難な方で円滑かつ迅速な避難の確保を図るため特に支援を要する方。
- ※ 温室効果ガス : 地球の大気中に含まれる二酸化炭素やメタンなどのガスの総称で、増え過ぎると、気温が上昇するなど地球全体の気候の変化が生じる。
- ※ 校区協働のまちづくり組織 : 主に小学校区を単位として設置され、自治会をはじめとする団体や個人が連携・協力し、地域交流や課題解決を行うなど、主体的にまちづくりを行う団体。

## 2 地域資源を 生かした活力ある まちづくり



### 分野 項目

## 都市機能の充実

### コンパクト・プラス・ネットワークの推進

居住や都市の生活を支える機能の誘導によるコンパクトなまちづくりと地域交通の再編との連携により、「コンパクト・プラス・ネットワーク※」によるまちづくりを進めます。特に、小郡駅周辺については、都市機能の集約や土地の高度利用を推進し、拠点性の向上を図るとともに、交通結節機能の強化を図ります。

### 交通利便性を生かした土地利用

筑後小郡インターチェンジ周辺、鳥栖ジャンクション周辺及び主要な幹線道路沿いの交通利便性を生かし、産業機能の集積や企業立地が可能となる土地利用を図るため、地区計画※の策定などを行います。また、スマートインターチェンジ※周辺地域は、地域の活性化につながる土地利用を検討します。

### 分野 項目

## 道路・交通網の整備

### 地域における公共交通の充実

交通弱者をはじめとする市民の日常生活を支えるため、多様な公共交通手段の導入を検討し、日常の交通手段として役割を十分果たせるよう利便性の向上に努めます。

### 分野 項目

## 農業の振興

### 収益性が高く安定的な農業経営の確立

単品に偏らない収益性の高い複合経営を促進し、スマート農業※機械をはじめとする高効率機械の導入などにより、省力化を進めるとともに、商品性の高い農産物づくりを促進し、所得の安定確保を図ります。また、農産物のブランド化や農商工連携※、6次産業化※の推進を図ります。

※ コンパクト・プラス・ネットワーク：人口減少・高齢化が進む中、公共交通と連携しながら、居住機能や医療・福祉・商業などの都市機能を集約・誘導することで、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進める考え方。

※ 地区計画：ある一定のまとまりを持った地区を対象に、その地区の特性にふさわしいまちづくりを行うための都市計画法に基づく制度。

※ スマートインターチェンジ：通行可能な車両をETCを搭載した車両に限定しているインターチェンジ。

※ スマート農業：ロボットやAIなどの先端技術を活用する農業。

※ 農商工連携：農林漁業者と商工業者が連携して、新しい商品やサービスの開発・提供、販路の拡大などを行う取組。

※ 6次産業化：1次産業としての農林漁業と、2次産業としての製造業、3次産業としての小売業などの総合的かつ一体的な推進を図り、農山漁村の豊かな地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取組。



オゴオリ☆農ガールズ

分野  
項目

## 商工業の振興

### ※ 商業経営の担い手の育成

商工会や関係機関と連携して事業承継セミナーなどを実施するとともに、新規創業者への支援に努めます。

### ※ 企業の誘導及び適正配置

筑後小郡インターチェンジ周辺及び鳥栖ジャンクション周辺などにおいて、優れた立地環境を生かし、地域振興に寄与する生活利便施設など幅広い業種による新たな企業の誘導及び適正配置に努め、新たに設置されるスマートインターチェンジ周辺も含めた計画的な土地利用を図ります。

分野  
項目

## 観光の振興

### ※ 観光資源及び地域資源の活用

「七夕」を地域ブランドとして確立し、地域の活性化につなげます。また、恋人の聖地※を活用した観光事業やモノ・ヒト・コトを生かした着地型観光※により、観光資源、地域資源の周知を図ります。さらに、伝統的な芸能、行事の継承を行う団体と連携し、歴史・文化遺産について観光資源としての活用を検討します。



七夕神社

- 
- ※ 恋人の聖地 : NPO法人地域活性化支援センターが「プロポーズにふさわしいロマンティックなスポット」として選定した観光地域。
- ※ 着地型観光 : 旅行者を受け入れる地域（着地）側が、地域の観光資源を基にした観光商品や体験プログラムを企画・運営する形態。

# 3 支え合い 健やかに暮らせる まちづくり



## 分野 項目

### 地域福祉の推進

#### 🚩 困りごとに対し包括的に支援する体制の構築

市民などが相互に役割を持ち、主体的に地域課題を把握し、解決を試みることができる体制の構築を推進します。また、支援分野を横断した課題や複合化した困りごとを抱えた人が身近に相談できる体制づくりや、相談後に支援へとつなぐ体制づくりを推進します。

#### 🚩 地域での福祉活動の担い手育成の支援

民生委員・児童委員などの担い手の確保に向けて、意識啓発などの取組を推進するとともに、地域の実情に適した身近で簡単な活動から始めることができる制度の構築を目指します。あわせて、地域福祉を担う人の負担軽減に向けた取組を進めます。

## 分野 項目

### 高齢者福祉の充実

#### 🚩 地域包括ケアシステムの推進

高齢者が住み慣れた地域で生き生きと安心して暮らし続けることができるように、「支え合い」の地域づくりを進め、自立した生活を営むための支援体制の更なる整備など地域包括ケアシステム※の充実を図ります。

また、医療と介護を必要とする在宅の高齢者に、包括的かつ継続的な在宅医療・介護を提供できるように、医療・介護の関係機関との連携を推進します。

#### 🚩 健康づくりと介護予防・フレイル予防の推進

高齢者が健康で生き生きとした生活が送れるよう、自らの健康維持・増進に心掛け、健康づくりや介護予防・フレイル※予防の取組に積極的に参加できる環境づくりを推進し、健康づくり（介護予防）ポイント制度※を実施します。

さらに、切れ目のない総合的な支援が行われるよう介護予防・日常生活支援総合事業の充実を図ります。

※ 地域包括ケアシステム：高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域において包括的な支援・サービスを提供する体制。

※ フレイル：加齢とともに心身の機能が低下してきて、「健康」と「要介護」の中間の状態にあること。適切な生活改善や治療などを行うことで、生活機能が以前の状態に改善する可能性がある。

※ 健康づくり（介護予防）ポイント制度：介護予防に資する活動や高齢者支援のボランティア活動に参加した人にポイントを付与する制度。



## 子ども・子育て支援の充実

### 保育環境の充実

延長保育や病児・病後児保育、一時預かりなど多様な教育・保育サービスの環境整備に努めるとともに、待機児童の解消に向けた対応や保育士確保を推進し、保育の受入れ確保に努めます。

## 健康づくりの推進

### 感染症対策の充実

感染症の正しい予防についての知識の普及啓発に努めます。

また、発生時には新型コロナウイルス感染症の流行の中に積み上げた経験をハード・ソフト両面で生かし、国、県、近隣市町、医師会などの関係機関との連携を図るとともに、情報提供を迅速に行い、被害を最小限にとどめられるように対策を講じます。

さらに、備蓄品の管理、調整を行い、非常時における業務継続体制の整備に努めます。

### 保健サービスの充実

生活習慣病の発症予防と重症化予防に向けた事業に取り組みます。また、がん検診の受診率向上のために、受診しやすい環境づくりや検査項目の充実に努めるとともに、予防接種の接種率の向上を図ります。

さらに、がん検診の精密検査対象者の受診率向上のため、早期発見、早期治療につながるよう検査体制の強化に努めます。

また、地域の特性に応じた保健サービスが展開できるように保健師・管理栄養士の地区分担制を推進します。

### 保健・医療・福祉・介護の連携強化

KDBシステム※などを活用して健康課題の分析を進め、保健事業への活用を図ります。また、データ分析に基づいた効果的な保健事業を行います。さらに、高齢者に対して、保健事業と介護予防を一体化した取組を行うとともに、相談体制を充実させ、健康寿命※の延伸を目指します。



のびのび教室

※ KDBシステム : 国保連合会に集約された「健診・保健指導」、「医療」、「介護」の各種データを利活用して、「統計情報」・「個人の健康に関するデータ」を作成するシステム。

※ 健康寿命 : 健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。

# 4 未来社会につなぐ 人づくり

分野  
項目

## 小・中学校教育の充実

### 未来に向かう心の育成

困難を越え人生や社会を豊かにしようとする「志」や「自律の力」、人を大切にする「つながる心」、ふるさとへの「愛着や誇り」など未来へ向かう心を育むためのキャリア教育※や道徳教育、人間関係を大切にした生徒指導、地域と結んだ体験活動などの充実を図ります。

### 生きて働く知の育成

知識及び技能やこれらを活用する思考力、判断力、表現力などの実社会で生きて働く「知」を育む指導・支援の充実を図ります。また、児童生徒の願いを大切にする「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善やグローバル化社会に対応した外国語教育を推進します。

### 健康で逞しい体の育成

生涯にわたって心身の健康を保持促進しようとする願いや目標を大切にしたい取組の充実を図ります。また、自らの身を危険から守る力を育むため、地域・保護者と協働した防災・安全教育の支援を行います。

### 地域とともにある学校づくり

学校運営協議会※の取組の充実を図り、学校・地域・保護者が連携・協働して「地域とともにある学校」を実現します。また、義務教育9年間を見通した小中一貫教育を推進するとともに、学校教育と生涯教育とを連動させ、子どもが郷土に関わり、豊かな郷土の未来を拓いていく「郷生」<sup>きょうせい</sup>の力を育みます。

### ICT活用力の育成

ICT※機器を正しく効果的に活用して課題解決を図りながら、主体的に生きる力を育む児童生徒の育成を目指して、児童生徒の情報活用能力（情報リテラシー※・情報モラル※を含む）及び教職員のICT活用能力・指導力の育成を推進します。

### 学校給食センター建設の推進

新中学校学校給食センター建設を推進します。衛生面及び安全性を重視し、学校給食が今まで以上に安全・安心なものとなるように、ハード・ソフトの両面から検討を行います。

- 
- ※ キャリア教育 : 一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。
  - ※ 学校運営協議会 : 学校と保護者、地域が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための仕組み。保護者や地域住民などから構成され、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動などについて意見を述べたりするといった取組が行われる。
  - ※ ICT : Information and Communication Technology の略で情報通信技術のこと。
  - ※ 情報リテラシー : 大量の情報の中から必要なものを効果的に探し出すとともに、見つけた情報を適切に評価・活用できる能力。
  - ※ 情報モラル : 情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度。

分野  
項目

## 人権・同和教育の充実

### 一人一人が大切にされる学校づくり

一人一人に居場所があり、お互いを大切にすることを実感できる学校づくりに取り組みます。また、「差別の現実深く学ぶ」の理念を基に、人権課題に自分事として切実に関わることができる教育を展開します。学校として、社会の変化に対応しながら、組織的・継続的に取り組めるよう、今日的な人権課題への視点を含めた研修の充実を図ります。

分野  
項目

## 生涯学習の充実

### 学習機会、活動支援の充実

“自分ならではの”の夢や願い「志」を持って目標にチャレンジできるよう、多様な学習機会や情報及び環境を提供します。特に、「女性活躍社会」や「地域共生社会※」について推進を図るとともに、「学び」を地域や社会での「活動」に生かすことができるように育成、支援を行います。

分野  
項目

## 文化財の保護活用の充実

### 文化財の活用の推進

文化財の情報発信について、デジタル化を踏まえた効果的・効率的に情報を発信する環境を整備します。また、子どもたちが郷土と日本の歴史、文化、伝統などに対する理解を深め、郷土のよさを生かす「郷生」の力を大切に育む教育を目指します。

分野  
項目

## スポーツ・レクリエーションの充実

### スポーツ環境の整備・充実

新総合体育館の建設については、市民に愛され、親しまれ、利用しやすい体育館とするため、施設の内容などについて検討し、建設を推進します。



小学生への史跡案内

※ 地域共生社会 : 市民が「支え手側」と「受け手側」に分かれるのではなく、地域住民や地域の多様な人・団体・機関が「我が事」として参画し、主体的な支え合いにより、暮らしと生きがいをもとにつくっていく社会。

# 5 持続可能な行政経営 体制づくり

分野  
項目

## 市民参画によるまちづくりの推進

### 市民参画の推進

各種審議会などへの市民の参加やワークショップ、車座トーク・出前トーク※など多様な方法により市民参画を推進し、市民との対話に努め、理解と協力を得ながら行政運営リテラシー（行財政運営について正しく読み解き、理解する力）の向上に努めます。

分野  
項目

## 健全な行財政運営の推進

### 健全な財政運営

将来的な財政収支を見通し、歳入に見合った財政運営に向け、市債残高の適正管理に努め、財政調整基金※の取崩しに依存しない財務体質の確立を目指します。

「選択と集中」に基づく投資的経費の重点配分を行うとともに事業実施の優先順位付けや「サンセット方式※」による事務事業の見直しを図ります。

分野  
項目

## デジタル化の推進

### 自治体DX※の推進

デジタル技術の利活用が難しい方にもデジタル化の恩恵が広くいきわたるよう配慮しながら、行政手続のオンライン化、AI・RPA※の活用などを実施し、利便性向上や業務の効率化を進めます。

※ 車座トーク・出前トーク：市政に関して、市民と市長が相互理解を深めるため、意見交換を行う取組。

※ 財政調整基金：自治体が財源に余裕がある年に積み立て、不足する年に取り崩すことで財源を年度間で調整し、計画的な財政運営を行うための貯金。

※ サンセット方式：あらかじめ制度や事業などの終了期間を決めておくこと。

※ DX（デジタル・トランスフォーメーション）：ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。

※ RPA（Robotic Process Automation）：従来人間が行ってきた定型的なパソコン操作をソフトウェアにより自動化する技術のこと。

## 第6次小郡市総合振興計画 概要版

発行：令和5（2023）年3月

編集：小郡市 経営政策部 経営戦略課

〒838-0198 福岡県小郡市小郡255番地1

tel.0942-72-2111（代表）

fax.0942-73-4466

第6次小郡市総合振興計画の詳細は  
ホームページで公開しています。

第6次小郡市総合振興計画

検索